

乗馬がとりもつタスカルーサでの交流

留学体験

材木谷 友里 (NI-Youth)

私はこの夏、アメリカのアラバマ州にあるタスカルーサ市に 2014 年習志野市青少年海外派遣団の一員として行きました。タスカルーサ市は習志野市と姉妹都市を締結し間もなく 30 年となります。タスカルーサ市は、アメリカ南部に位置し、人口約 9 万人の街です。ちなみに習志野市の人口は約 16 万人ですので習志野市の半分ぐらいの人口ですが、広さは習志野市の 5 倍の広さであり、心温かい田舎の街といった感じです。

私のこの夏の体験は、2014 年 6 月に習志野市を訪問したタスカルーサ市青少年訪問団との交流が始まりです。

私は小学校 6 年生の時から自宅の近くの乗馬クラブに所属し、乗馬を趣味としています。そして今回、タスカルーサ市青少年訪問団員の女子の一人メアリーが同じように乗馬を趣味としていることを知りました。メアリーとは富士吉田青年の家での合宿の時も馬について語り合うことが出来、素晴らしい、充実した時間を過ごしました。

実はこのことが縁となり、私がタスカルーサ市を訪問した際の 12 日間をメアリーの家にホームステイすることになったのです。

この 12 日間は毎日が刺激的で、視野がみるみるうちに広がっていくように感じました。それはホストファミリーの温かなホスピタリティと色々な場所に連れて行ってくださった家族ぐるみの親切さがあったからでした。

前述の私の趣味の乗馬ですが、日本人で乗馬を趣味とする人は少ないように思います。そんな中、メアリーが乗馬をしていると聞いたときはとてもうれしく思いました。共通の趣味を持つ友達を海外で作ることができたことは、私にとって大きな誇りになりました。また、ぎこちないながらも英語で好きな馬に

ついて、語り合えたのもとても楽しい出来事でした。

そして何より、現地の乗馬クラブを見学したときは、大いに驚きました。2 ヶ所の乗馬クラブを彼女のお父さんに案内してもらいましたが…なんと広いこと！。言葉では言い表せないほどの広さで、素晴らしい環境でした。当然ながらどの馬も穏やかな性格のように窥えました。アメリカは日本に比べて乗馬に適した環境がそろっているのだなと思いました。

私のこの夏の体験は 2 週間という短期の留学でした。「短すぎて意味が無い」とおっしゃる方もいるかもしれませんが、私はそうは思いません。確かに過ぎた時間はあっという間で、もう少し長く居たかったという思いもあります。しかしこの 2 週間で私は、今までの思考や抱えてきた悩みなどがいかに小さかったかを思い知らされました。この留学はいうまでもなく、私にとって大きな経験になりました。馬を見ただけでなく、毎日のように食べたメキシカンフードや、教会やミュージカルへ行ったこと、湖に突き落とされたこと（笑）は一生の思い出です。また機会があれば、この地を絶対に訪れたいと思っています。そのときは、成長した自分を見て欲しいので、今から日々努力しています。



現地の乗馬クラブを訪れた筆者(左)